

# みんなの ぼうはん



みんなのころ、からだ、いのちは、とても たいせつです。

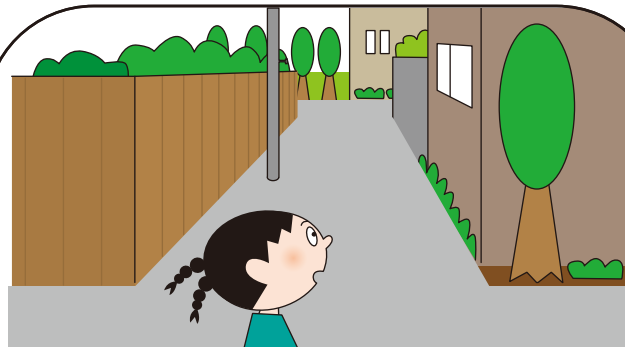
みんなが、えがおで あんぜんに くらすことが できるように、  
おうち、がっこう、ちいきのおとなたちは、みんなをみまもり、たすけてくれます。  
みんなも、はんざいなどの きけんから じぶんを まもるちからを みにつけよう!



とちぎけん

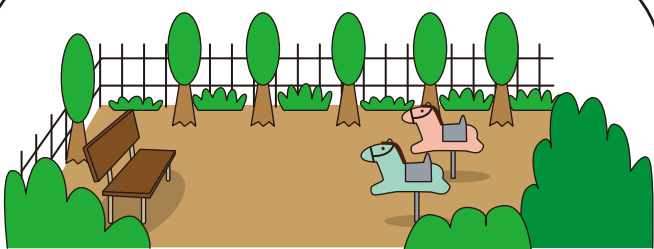
# きけんなことが おきやすい とき

ひとりに なるときは、  
きをつけよう!



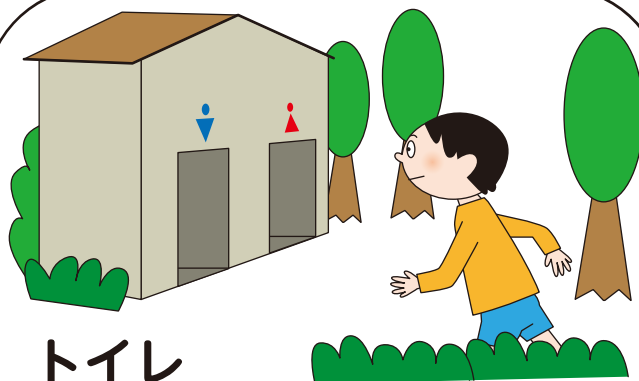
## みち

ひとが いない みちを あるくとき



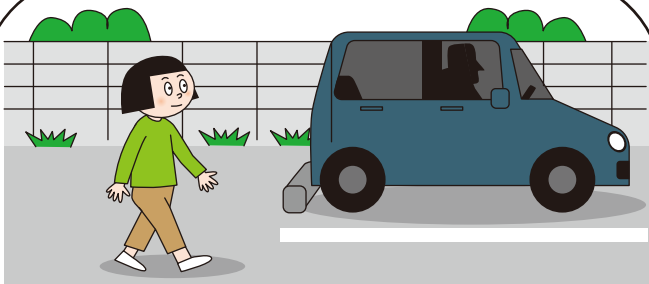
## こうえん

ともだちが いない とき、  
まわりから みえないところに いるとき



## トイレ

ひとりで トイレへ いくとき



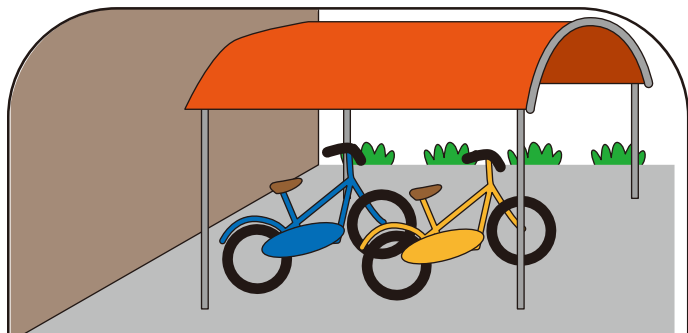
## ちゅうしゃじょう

ひとが のっている くるまの ちかくを  
あるくとき



## スーパーマーケット・ ショッピングセンター

おうちのひとの ちかくから はなれたとき



## じてんしゃおきば

じてんしゃおきばの なかに はいるとき



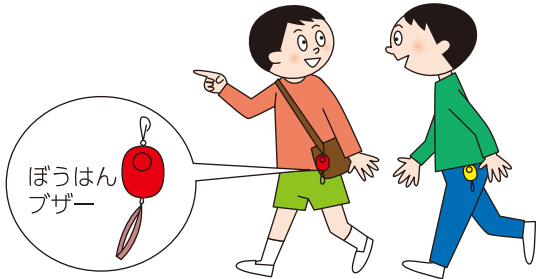
## いえのちかく

ひとりで おうちに かえってきたとき

# じぶんを まもるための ちから

みんなは、たくさんの ちからを もっているよ!

## ①ひとりにならない



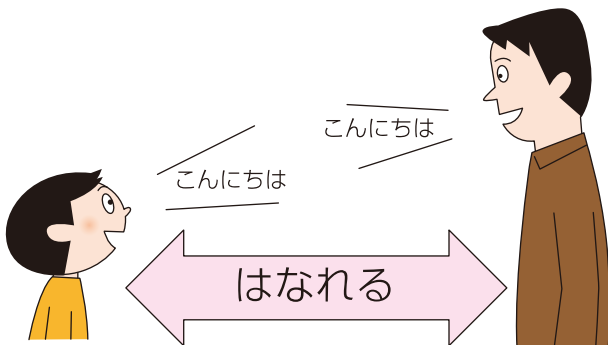
そとでは、なるべくひとりにならないように、おうちのひとや ともだちと いっしょにあるきましょう!

## ②よくみる、よくきく



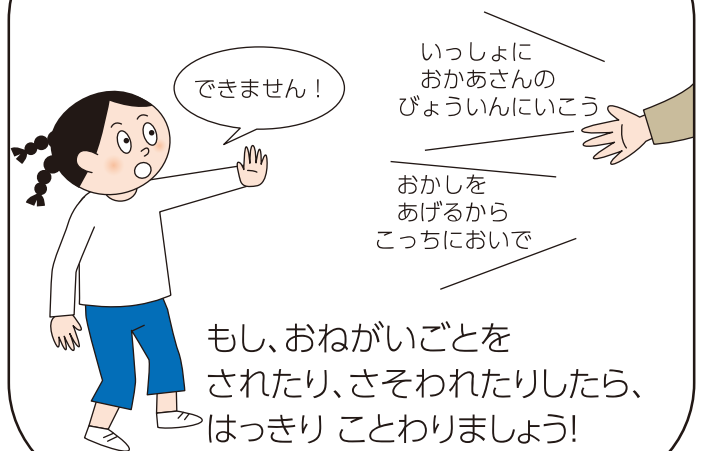
もし、ひとりに なったら、 まわりをよくみて、 まわりのおとを よくきいて、 ちゅういしましょう!

## ③はなれる



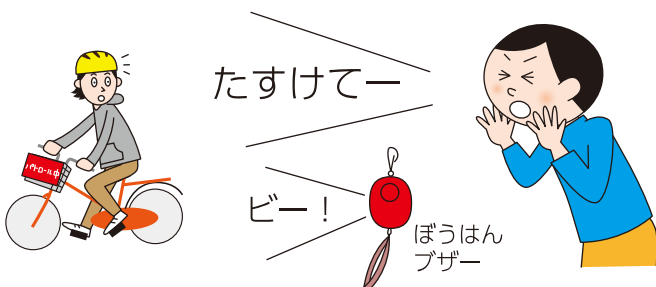
ひとと あいさつをするときは、てが とどかない きよりに はなれましょう!

## ④ことわる



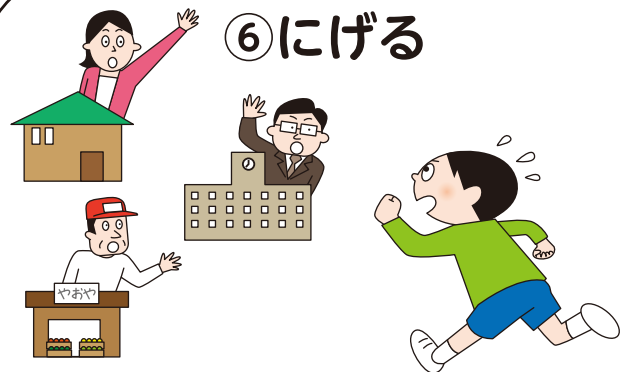
もし、おねがいごとを されたり、さそわれたりしたら、 はっきり ことわりましょう!

## ⑤つたえる



こわいこと、きけんなことを かんじ たら、まわりのひとに たすけてを つたえましょう!

## ⑥にげる



まわりにひとがいないときは、 たすけてくれるひとが いるところへ にげましょう!

# 保護者のみなさんへ 子どもたちの安全を、みんなで守りましょう！

## 1. 「子どもだけになる瞬間」を減らしましょう

子どもが狙われやすい犯罪の多くが、「子どもだけになる瞬間」に発生しています。

特に、通学など外で行動する際は、「大人の付き添い」が一番の防犯力となるため、可能な範囲で付き添いを行うことをおすすめします。たとえば、集団登校の集合場所、防犯ボランティアのみなさんや他の児童が行き交う道まで付き添うことや、集合住宅のエントランスや家の玄関先で見送ることも効果的です。夕方や夜間は、人通りも少なくなることから、放課後児童クラブや塾、お稽古の際も大人のお迎えが一番の防犯対策です。

## 2. 地域全体で見守る雰囲気づくりが欠かせません

保護者の付き添いには限界があるため、地域での見守り等の防犯ボランティア活動も大きな力となっています。防犯ボランティアは、犯罪が起きにくい環境づくり、助け合いの環境づくりで力を発揮します。また、PTAや地域の事業者など、様々な人たちが「ながら見守り」※を行うことは、「子どもだけになる瞬間」を減らし、犯罪から子どもたちを守る底力となります。子どもたちの安全のためには、保護者のみなさん、地域のみなさん、そして、子どもたち自身も「ひとりにならない」意識を共有し、お互いを見守り、助け合う環境づくりが欠かせません。

※「ながら見守り」とは、買物や散歩、通勤・通学、庭仕事などの日常生活や事業活動を行う中で、防犯の視点をもって地域や子どもたちを見守る防犯活動です。

## 3. 子ども自身の防犯力を高めましょう

小学生になると、ひとりで行動する機会が増え、行動範囲も広がります。注意しなければならないのは、「場所」だけでなく、「子どもだけになりやすい瞬間」です。同じ街区や集合住宅に暮らしていても、「ひとりになる瞬間」は子どもたち一人ひとりで異なります。行動範囲や時間帯をみながら、「ひとりになる瞬間」をお子さんと一緒に確認してみましょう。その際、集合住宅の敷地内や、家の玄関先などもひとりになりやすいため、忘れずに確認してください。そして、「ひとりになる瞬間」が発生した際は、子どもがもつ「自分を守る力」を発揮することがもとめられます。観察力、距離感、きっぱり断る、逃げる、“助けて”を伝える…など、学校や家庭で身につけた防犯力を実践してください。いざというときに力を発揮できるよう、定期的に確認しましょう。

## 4. 何でも話せる環境づくりも大切に

もし、お子さんから不安なことや心配なことなどを伝えられたら、しっかりと受け止めてあげてください。子どもたちにとって「伝える」ことは、自分を守る大切な力です。危険と遭遇した時、大きな声で「助けて！！」を伝える場面があるかもしれません。一方、身近な大人に「こんなことがあった…」と打ち明ける、ＳＯＳを発信してくることもあるかもしれません。その際、必要に応じて、警察へ通報や相談をしてください。緊急時には１１０番通報を、相談等は最寄りの警察署へ連絡してください。

県では、「ながら見守り」や「地域安全マップ」に関する出前講座を実施しています。  
出前講座や防犯活動などに関するご相談は、お気軽にご連絡ください。



【栃木県ホームページ】

栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課  
〒320-8501 宇都宮市埜田1-1-20  
電話 028-623-2154  
E-mail kurashi@pref.tochigi.lg.jp